

## 伊香具神社と白鳥伝説

日本国内のみならず、世界の各地に広がっている伝説の一つに白鳥伝説(羽衣伝説)があります。その中でもよくまとまった古いものと言われるものが、『近江風土記』に収録されていたと言われるもので、それは以下のようなものです。

『古老の伝へて日へらく、近江の国伊香の郡、与胡の郷伊香の小江、郷の南にあり。天の八女、俱に白鳥となりて天より降りて江の南の津に浴みき。時に、伊香刀美、西の山にありて遙かに白鳥を見るに、その形奇異し。因りて若し是れ神人かと疑ひて、往きて見るに実に是れ神人なりき。ここに、伊香刀美、即て感愛を生して得還り去らず。ひそかに白き犬を遣りて天羽衣を盗み取らしむるに、弟の衣を得て隠しき。天女、乃ち知りて、その兄七人は天上に飛び昇るに、その第一人は得飛び去らず。天路永く塞して即ち地つ民と為りき。天女の浴し浦を今、神の浦と謂ふ、是なり。伊香刀美、天女の弟女と共に室屋と為りて此処に居み、遂に男女を生みき。男二人、女二人なり。兄の名は意美志留、弟の名は那志登美、女は伊是理比壳、次の名は奈是理比壳、此は伊香連等が先祖、是なり。後に母、即ち天羽衣を捜し取り、着て天に昇りき。伊香刀美、独り空しき床を守りて、なが詠すること断まざりき』

この伝説のなかの伊香刀美は、ご祭神『伊香津臣命』と重なります。そして伊香刀美と天女の間生まれた4人の子供が伊香郡民の祖先となったといわれます。



### 案内地図



- 創立 白鳳年間(約1350年前)
- 御祭神 伊香津臣命
- 鎮座地 滋賀県長浜市木之本町大音
- 例祭 4月6日
- 神事 3月24日(日)  
(オコナイ) (平日の時は前の日曜日)

## 名神大社 伊香具神社

宮司 伊香忠雄

滋賀県長浜市木之本町大音  
(社務所の西50m)  
TEL.0749-82-3567

発行/部数 平成25年6月/1,000部  
制作・印刷 谷口印刷株式会社



# 名神大社 伊香具神社

## 由緒

「伊香」と書いて古くは「いかご」あるいは「いかぐ」と発音しました。ですから「万葉集」ではこの背後の山である賤ヶ岳連山を「伊香山」と書いて「いかごやま」と読ませています。

またその名は火の迦具土の神と関係が深く神社の後ろの山は香具山とよばれます。さらに、伊香具神社の末社にある「意太神社」の御祭神が迦具土の神であることからこのことが伺えます。したがって防火・火伏せの神としてのご利益もあらたかです。

さて、「伊香津臣命」という神様は天兒屋根命第六代孫にあたられのちの中臣氏(藤原鎌足らの氏族)の祖先でもある方です。また、九世紀の後半当神社の神官で伊香津臣命から第十六代目に当たる伊香厚行という人は、中央政府の高官として菅原道真公とも親交がありました。菅原道真公は幼少時この北方の菅山寺(余呉町)で修行されたと言われ伊香具神社を厚く信仰され、自筆の法華教、金光明教を奉納されました。また、宇多天皇に申し上げて「正一位勲一等大社大明神」の額を賜りました。

当時制定された「延喜式」の神名帳に記載された神社を「延喜式内社」として古くから信仰の厚かった由緒ある神社とみなされていますが、近江155座のうち当時の伊香郡は全国的にも大変多く、伊香具神社の大社1社の他小社45座を数えています。後足利尊氏が天下をとった時にも200石を賜り毎年正月・五月・九月の十八日に国内の無事を祈る祈禱祭を依頼されました。以後祭儀は今も絶えることなく続いています。







## 伊香山

伊香具神社の後方の山は現在も万葉の時代とそのたたずまいはあまり変わっていないと思われます。当時この辺りは都と日本海(大陸への窓口)を結ぶ交通の要衝で萩の名所でした。『万葉集』には“笠朝臣金村の伊香山にして作る歌二首”として  
◎草枕 旅ゆく人も行き触れば  
にほひぬべくも咲ける萩かも(巻八-1532)  
◎伊香山野辺に咲きたる萩見れば  
君が家なる尾花し思ほゆ(巻八-1533)  
が見られます。

また、延喜三年の我が国最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』の巻八には伊香津臣命第十六代孫で当神社神官伊香厚行<sup>いかごのあつゆき</sup>という人が“東の方にまかりける人に詠みてつかわしける”として  
◎思へども身をし分けねば目に見えぬ  
心を君にたぐへてぞやる  
という歌を詠んでいます。歌の意味は関東の方へ下ってゆく人に別れを惜しんで「あなたと一緒にいきたいと思うが、自分の体を二つに分けられないので、せめて心だけでもあなたに添えて一緒に行かしましょう」というような意味の別離の歌です。  
この歌碑が数年前境内に建てられました。

## 境内地と建造物など

境内には樹齢約400年くらいの杉の大木が数多く見られますが、本殿はじめ数多くの宝物類は信長による焼き討ちや、賤ヶ岳の合戦ですっかり焼けてしまいました。現在の本殿は徳川中期のもので

### ◆伊香式鳥居

正面に大きく羽を広げたような鳥居は三輪式鳥居と巖島式鳥居を組み合わせた当神社独特のものでこの神社の前が伊香の小江と呼ばれた琵琶湖の入り江であったことを示すものです。他の神社では見られないこの鳥居を伊香式鳥居と呼んでいます。

### ◆参道

神社の参道は長番場<sup>ながばんば</sup>とよばれ、両側にボタン桜が植えられて4月下旬に見ごろを迎えると見事な花のトンネルとなります。桜の間には紫陽花やさつきが植えられています。

### ◆野神さん

神社から約800メートルほど東に一の宮と呼ばれる小字がありこの橋の近くに樹齢約400年ほどの白樫の木が伊香具神社の野神さんとして神聖視されています。この地域の神社の多くは、地区の入り口あたりに野神さんと呼ばれて大切に祀られている巨木がよく見られます。

### ◆蓮池

境内東南の隅の池は伊香の小江の名残といわれます。隣接する小さな池は弘法大師が独鈷を持ってこの入り江に住む毒蛇を伏せこめたという伝説から「独鈷水」として今も神聖視されています。

### ◆鶴亀灯籠

神社にはどこにでもある灯籠ですが、社務所に向かって右側の石組みで作られた灯籠は下がカメ・上に鶴が乗っている様子に見たてられるところから鶴

亀灯籠と呼ばれています。

### ◆伊香招魂社

明治14年国難に殉じた英霊をまつる「護国神社」としてこの地に建立され現在1740柱の英霊を祭る旧伊香郡の「招魂社」として維持されてきました。現在はこの地区(大音自治会)にて遺族を招いて年一回例祭を執り行っています。

### ◆摂社・末社

本殿の両側にはご祭神の後裔をお祭りする摂社2社があり、また境内には東の端に三宮社が鎮まっています。裏山は香具山と呼ばれていますがその中腹あたりの岩陰に天児屋根命をまつる奥宮があります。さらに村の中央の大門と呼ばれる広い通りの上の方数百メートルには火の迦具土の神をまつる意太神<sup>おふとじん</sup>社(式内社)もあります。

### ◆大音糸

この地区は昔から大音糸とよばれる楽器糸の生産を行ってきています。今は文化庁選定保存技術として伝えられていますが、かつてはこの地域の7割近くの家が従事する主要産業でした。これを始めたのも伊香厚行と言われています。伊香厚行は先に述べた平安時代の人で神祇官として都で神社行政にあたる傍ら郷土の産業開発にも力をいれ伊香具神社境内の池の清水を用いて生繭を煮て糸を引かせたところ上質の糸ができたのでこれを京都に持って行き装束の紐や楽器糸に作り全国に広めたといわれています。今も、邦楽の音色にはこの地域で生産された糸が欠かせないといわれています



▲歌碑



▲一の宮の白樫



▲石灯籠



▲独鈷水



▲糸とり

